

平成28年度第1回成田市環境審議会会議録

1 日 時 平成28年5月23日（月）午前10時30分～午前11時40分

2 場 所 成田市役所3階第二応接室

3 出席者

（委員）

本橋敬之助会長、森山茂副会長、片岡孝治委員、富井柁夫委員、一色尠夫委員、豊田いつ子委員、印宮照夫委員、長尾ミチ子委員、古園隆委員、西山重男委員、長谷川吉昭委員、佐藤勝幸委員、綿貫沢委員、田中典枝委員、小島猛委員

（成田市）

吉田副市長

環 境 部 石井部長

（事務局）

環境計画課 椿課長、吉原課長補佐、渡部係長、大竹主査、横田主事

環境対策課 大竹課長

クリーン推進課 黒田課長

環境衛生課 石橋課長

4 議題

- （1）平成28年度環境部の概要について
- （2）その他

5 傍聴者

3名

6 会議次第

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 会長あいさつ

4. 議事

（1）平成28年度環境部の概要について

（2）その他

5. 閉会

7 議事（要旨）

（1）平成28年度環境部の概要について

環境部各課長より、各課の事務分掌・事務事業の詳細について説明を行った。

議題（1）において出された質問等は次のとおり。

（○・・・質問、→・・・質問に対する回答）

○環境計画課の事業において、地球温暖化対策についての話があったが、成田市として省エネ設備への補助金以外に何か低炭素化に向けた取り組みはしているのか。

→昨年のCOP21を経て新たな施策が必要とされているが、現在成田市で実施している一番大きな地球温暖化対策の事業は省エネ設備への補助金である。随時有効な設備については対象設備に追加を検討していきたい。その他として、市と事業者が協定を結んで低炭素化を目指していくという地球環境保全協定というものがある。現在150社を超える事業者と協定を結び、積極的に地球温暖化対策を推進している。

また、成田市役所エコオフィスアクションというものがある。これは、市役所の事務事業において、両面コピーの推奨など低炭素化の実現に向けた各種取り組みを推進するものである。

ごみの減量化についても推進しているほか、28年度、29年度で新しい環境基本計画の策定も予定している。この計画は、計画期間を10年とし、環境部の施策を網羅的に計画していく内容であり、28年度は素案の作成を目指す。この中で低炭素化についても記載する予定である。環境審議会の協力も得ながら情報収集をし、有用なものについては積極的に取り組んでいきたいと考える。

○ごみの減量については、市民一人一人が意識することが大切だと思う。成田市では、学校や生涯大学校での教育があるが、それ以外でごみの減量等について市民一人一人の意識向上のための取り組みは行っているか。

→ごみの減量については、廃棄物減量推進事業として実施している。市民の意識改革については、廃棄物減量等推進員を委嘱し、区・自治会を通して行っている。すぐに成果が見えるものではないかもしれないが、粘り強く取り組んでいきたいと考える。

○自然災害で発生するごみ、ガレキについて聞きたい。成田市では災害で発生したガレキ等を一時保管する場所はあるのか。または、近隣市と連携して処理する協定のようなのはあるのか。

→具体的にどこに保管するか、どのように近隣市と連携していくか等については、決められていない。今いただいたご意見を踏まえ検討していきたいと考える。

○クリーン推進課のリサイクル運動推進事業と、ごみ収集事業について、どちらでも資源物を回収していると思うが、どちらの回収の方がよいのかなど両事業の兼ね合いはどうなっているのか。

→リサイクル運動推進事業の実績については、平成26年度では159団体2,076トン、平成27年度では157団体1,962トンと、団体数、リサイクル量は減少傾向にある。

リサイクルについては団体で収集するもの、市で収集するものとあるが、あくまでもごみの減量化・資源化を目的としているので、どちらを推奨ということはなく、資源化に取り組みたいと考える。

○新清掃工場関連付帯施設整備事業について、どんなものを予定しているのか等、具体的な構想を聞きたい。

→建物について、延床面積5,000㎡、温水プール、25m競泳用プール5コース、ジャグジー、子ども用プール、寝湯等の温浴施設を予定している。また、多目的室や各種トレーニング教室等も含み検討している。建物の外については、多目的広場等を想定している。完成の年度については、現在のところ平成31年度となっているが、用地関係の課題も考慮し、事業を進めていきたいと考える。

○航空機関係以外の騒音について、草刈り機やバイク、バス等あると思うが、排気ガスについても含めて、行政として何か対策は行っているのか。

→騒音、大気質、水質等について定点測定を行っている。また、工事などの音についての通報が来た場合にも、現場確認し、敷地境界線で騒音について測定している。現在のところ大きく基準を超えている箇所はないが、苦情等ある場合には、騒音振動の発生への配慮をお願いしている。排気ガスについては、大気質という区分で測定をしているが、これについても基準を超えているといったことは確認できていない。環境基準を満たしている。

○草刈り機について、古いものだと騒音が発生するというようなことはないのか。市で貸し出すものについては、新しいものに更新するということを考えに入れてはどうか。

→昨年度新しいものに買い替えている。そちらの機器がどこまで低騒音なのかは把握していないが、常に新しいものへの更新を考慮しながら実施している。

○地球温暖化対策推進事業について、大規模な太陽光発電システムの設置に伴う山、森の

開発等、最近よくみられるが、開発について何か規制等はあるのか。

→太陽光パネルの設置について、具体的に法律で規制するという事は、現在のところ把握していない。成田市では景観条例に基づいて、景観への一定の誘導施策を実施しているが、環境部として、今後規制ができるのかという難しい部分があり、貴重な意見として頭に留めておきたい。

○新清掃工場について、溶融炉が高温になったことで、ダイオキシン排出の心配がなくなり、紙・プラスチックについても一緒に燃やせると聞いた。紙・プラスチックについて分別を怠り収集に出している人もいるかと思うが、高温の溶融炉なので一緒に捨ててしまってもよいのか。

→成田市としては、大前提としてごみを減らしたいと考えている。旧清掃工場においては、ビニール・プラスチック類については、炉の温度があまり上がらないため、燃やさず外部委託し、固形燃料等に再利用していた。新清掃工場においては、高温のため、燃やせるようになったが、ごみの減量化のため、できるだけ容器包装リサイクル法に則り再利用することとした。再利用できない汚れたものについては可燃ごみと同様に燃やすわけだが、その分熱回収し、エネルギーとして再利用している。

計画としては、ごみを減らしていくというものになっているが、なかなか減らないという状況がある。市としても宣伝が足りない部分があるかと思うが、汚れてしまったものは燃やしてくださいという宣伝が効きすぎた部分もあるかと思う。各種方法でごみの減量化の推進に努めていきたいと考えている。

その他、29年度には一般廃棄物処理基本計画の策定も控えている。現状でのごみの状況等を把握したうえで、どのようにしていくべきかということについて検討したい。

(2) その他

次回環境審議会での報告事項

- ・動植物生息調査（平成26・27年度実施）
- ・成田市役所エコオフィスアクション推進事業の結果
- ・環境基本計画策定の進捗状況等